

報 告

ハンドバイクで北海道を走ろう！

WILD GATE 増子 重紀

1. 出会い

子供の頃、自転車に乗れるようになった時に、自分の行動範囲がとても広がって、「自転車なら、自分の力でどこまでも行ける。」と思っていた。

そして月日が経ち、自分が障がい者となって、リハビリ目的で紹介されたハンドバイクに初めて乗った時に、それまでいろいろなスポーツをしても満足に続かなかった自分が、「ああ、なんて楽しいんだ。これなら、もっと自由になれる。」そんな子供時代の頃に描いた、純粋な気持ちを思い起こさせてくれたのもこのハンドバイクだ。

2. 北海道でポタリング

自転車にモーターバイク、そして車に乗っても、誰でも一度は走ってみたいと憧れる場所、北海道。

いつしか自家用車にハンドバイクを積み込み、何

度となく北海道を訪れるようになっていた。はじめは札幌市内を中心に(写真1)、小樽などをアダプタータイプのハンドバイクでポタリング(自転車散歩することの和製英語)。市街地の道路状況は、本土と違い、冬の除雪対策で道幅も広く、段差も少ないので走りやすい。アダプタータイプのハンドバイクにとってのポタリングは、かなり有利ではないだろうか(写真2)。



写真2 小樽運河をゆったり走る

昔、タバコや車のCMで使用された、美瑛の丘でのツーリング。美瑛の丘はアップダウンがあり、アダプタータイプのハンドバイクで走るには、それなりの覚悟が求められるが、行けない場所でもない(写真3)。



写真3 美瑛の丘を、おもしろ苦しく走る



写真1 札幌市時計台にて

WILD GATE

〒962-0402 福島県須賀川市仁井田字館内 225

3. 帯広での出会い

北海道の広大な大地を、本格的にツーリングしたいと思い立ったのが今年の春。しかしいきなり行っても困難なので、ならば下見と現地の情報収集も悪くはないのではと思い、早速ハンドバイク輸入代理店の(株)テレウスの木戸司社長に依頼し、帯広在住の福祉車両のプロショップ「イフ」の内藤憲孝氏を紹介して頂いた。

5月の連休にもかかわらず、内藤氏の手配により、オフ会を兼ねて、帯広を中心とした北海道のハンドバイク仲間と出会うことになる(写真4)。



写真4 北愛国交流広場にて

当初は現地のサイクリングロードを使つてのツーリングを予定して頂いたのだが、あいにくの雨のため急遽予定を変更し、北愛国交流広場に場所を移して、ハンドバイクのポジションやセッティング、操作方法、そしてトレーニング方法などの情報交換の場となった(写真5)。この日は少人数ではあったが、初対面にもかかわらず、北海道の風土なのか、全員が気さくな方々で、それを取り巻く人々のネットワークもすばらしい。北海道でのハンドバイクユーザーは、間違い



写真5 ポジションとセッティング

なくこれから増えて行く予感がした。

4. 三国峠

今回の帯広滞在の最終日に、坂村堅二氏のご厚意により、三国峠のツーリング(ほぼダウンヒルに近い峠の下り)に行くことができた。



写真6 残雪の士幌町三国峠

三国峠頂上付近は、5月であつてもさすが北海道、雪だった(写真6)。滑る路面に気をつけながらどんどん下ると、大樹海のパノラマは冬から春の景色へと変化してくる(写真7)。これが北海道ツーリングの醍醐味なのか!



写真7 ダウンヒルは最高!

5. まとめ

紙面の都合上、伝えきれないものが多いが、感じたのは、ごちゃごちゃとした本土のサイクリングロードを走るより、広大などこまでも真っ直ぐに続くこの道路を一度でも走ると、いつしか解放された自由を感じてしまうだろう。とにかく走れる場所がどこにでもある、まさにハンドバイク天国北海道。次は装備を揃えて、本格的なツーリングに挑戦かな。